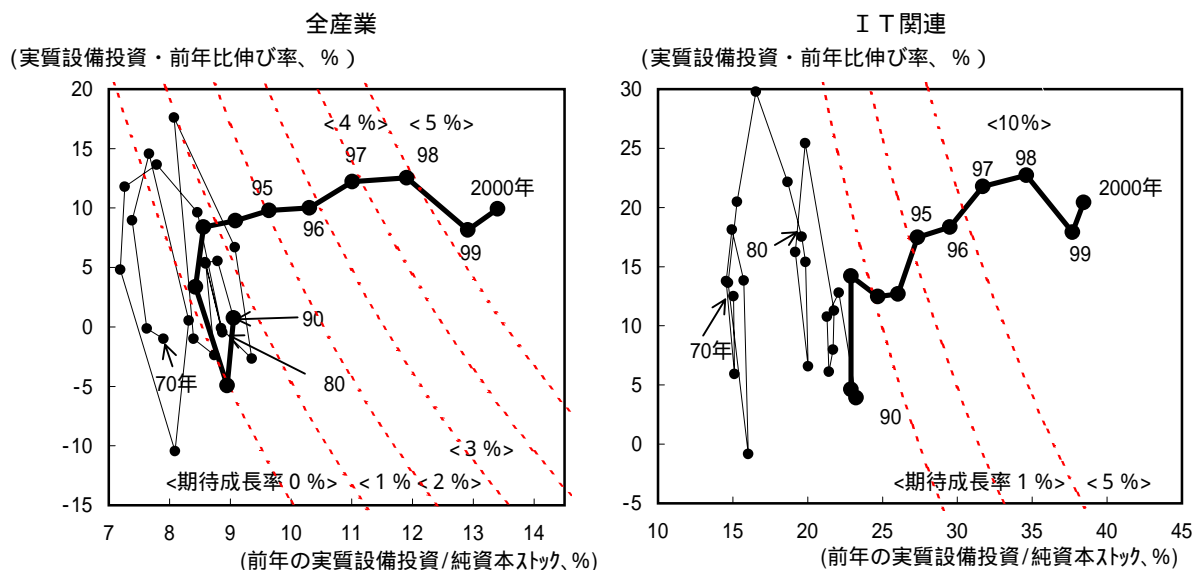


ストック調整のもとで抑制される米国の設備投資

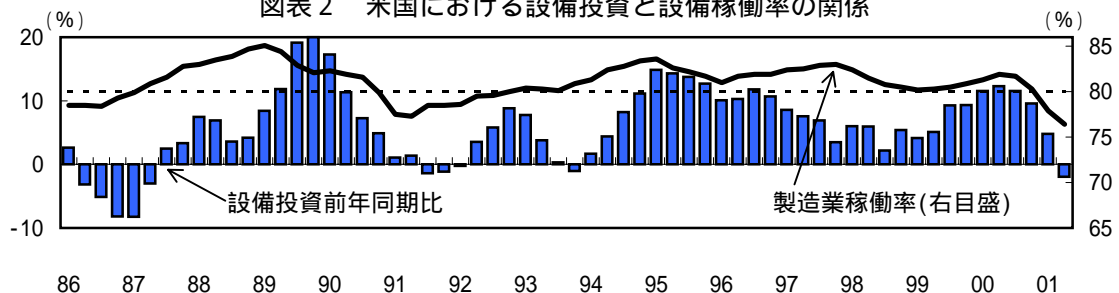
- ・90年代、米国の設備投資は一貫して高い伸びを続け、資本ストックの伸びが著しく高まっている。しかし、ここ数年の設備投資の伸びは、実際の経済成長と除却に見合うようなストックの蓄積を大きく上回るものであり、資本ストックが過剰となっている可能性がある。こうした傾向は、これまで強い伸びを示していたIT関連投資及びストックにもみられている。
- ・このため現在、設備稼働率は80を下回る低い水準となっており、設備投資は低迷している。過去のデータからは、製造業稼働率が約80を超える水準になると、設備投資に回復の兆しがみられると試算される。資本ストック調整や設備投資意欲の低迷に加え、9月11日に起きた同時多発テロ事件が企業マインドに悪影響を与える可能性も否定できないことから、設備投資の本格的な回復は2002年4 - 6月期以降にずれ込むと考えられる。

図表1 米国における90年以降の期待成長率と純資本ストックの関係



- (備考) 1. 米国商務省「National Income and Product Accounts」、「Fixed Assets and Consumer Durable Goods」により作成。
 2. 資本係数(純資本ストック/実質GDP)の伸び()と資本ストックの除却率()を一定と仮定した中期的な状況では、ある期待成長率のもとで設備投資の伸びと前期設備投資/資本ストックの間に双曲線の関係がある(設備投資の伸び×前期設備投資/資本ストック=期待成長率+)。ここでの と は95~99年の平均としている。

図表2 米国における設備投資と設備稼働率の関係



- (備考) 1. 米国商務省「National Income and Product Accounts」、FRB「Industrial Production and Capacity Utilization」により作成。
 2. 設備投資前年比 = a + b × (2期前稼働率前年比)を、稼働率水準がp以上のサブ・ルとp未満のサブ・ルを分けて推計した。両方のサブ・ルで稼働率が投資に与える影響が等しければ、aおよびbの値が両サブ・ルで等しくなるはずである。F値はこの仮定の妥当性を図るものであり、ここではp = 80のときF値が最も高く、その稼働率水準を境に投資と稼働率との関係が変わっていると考えられる。

[調査部(経済調査担当) 品田 直樹]